

□議員名：山田伸幸

1 財政の見通し

論点	合併市町村に配慮された地方交付税の算定がえにより、現在より約6億円もの減額となるとされている。合併効果による経費の節減などで、それだけの減額を補うことができるのか。
回答	減額の影響額について、財政計画にも反映されている。基金が約30億程度あり融通できる財源がある程度確保できており、多分大丈夫であろうと思われる。

論点	大型公共工事が計画されているが、市の財政はこれらを実施しても大丈夫なのか。
回答	合併特例債を活用した事業の実施により、基準財政需用額も増加していくものと見込んでおり、地方交付税全体としては、合併算定替影響額より緩やかな減少傾向になると見込んでおり、問題はない。

論点	市として市の特別な事情を考慮して、財政のあり方に明確な考え方と、独自の目標を持っておくべきだと考えるがどうか。
回答	市の様々な事情を説く吟味し、部内でしっかりこれから協議をし、勉強をし、財政計画をより健全な山陽小野田市の財政計画を持つべきだ、あるいは財政指数を持つべきだということについても参考にさせていただきたい。

2 社会保障としての国保制度のあり方

論点	市の国保料が相変わらず高いレベルだが、国保料を引き下げていく対策をどう考えているのか。
回答	医療費を引き下げることが国保料の引き下げにつながる。一つの手段として医薬品費を下げることに効果があるジェネリック医薬品の利用普及を促進するために、差額通知書を発送した。もう一つが多重受診対策で、医療費通知を年4回発送して、医療費の多受診等で医療費が高いという啓発に努めている。

論点	国がすすめているのが県単位で広域化することだが、広域化への取り組みの現状と、広域化で国保が抱えているさまざまな問題点が解決するのか。
回答	県は保険財政共同安定化事業の拡大、調整交付金の活用、標準保険料等の設定の3つの施策により、保険料の平準化に向けた取り組みを検討しており、県内で保険料の高い本市としても期待している。しかし、国が実施主体や運営方法などを示していないため、支援方針について具体的なものがない。市として、少しでも市民の負担が減るよう意見を出していく。

論点	昨年度の決算は大きな黒字を計上したが、保険料の引き下げにつながるのか。
回答	予算を立てる際に保険料を抑えるために、一般会計からの繰り入れを計上していたが、医療費が様々な事情により下がったことにより、結果として黒字を計上した。黒字分は次年度への繰り越しとして、会計の中で余剰分として抱えておきたい。

3 教育委員会のあり方について

論点	学校給食センター化のパブリックコメントを募集したまま放置して良いのか。
回答	給食センター化の計画案について、さらに検討を重ねており、その結果に基づいて回答を公表することとしており、具体的な計画案が決定した後解答することとしている。公表が遅れていることについては広報でお詫びする。

論点	社会問題となっているいじめや不登校について、教育委員会がどう対応しているか。
回答	本年4月に全国に先駆けて策定した、山陽小野田市立小・中学校における組織的規律指導にかかる指針の趣旨や組織的な取り組みなどについても、教育長が再度説明し、いじめ問題に関する意見交換を行っている。

論点	8月にいじめ問題の懇談会を開催したが、教育委員会の存在意義が果たされた取り組みといえるか。
回答	8月21日市民館において開催した、市民・保護者との意見交換会では、予定時間を超える活発な意見交換が行われ、忌憚のない市民の声を聞くことができた。不登校の問題についても、市民から意見が出され、教育長が、学校や心の支援室の取り組みについて説明をした。これからも教育委員が市民との対話を持つことに努めていく。